家庭のよりどころ・絆となるお仏壇

昭和時代、お仏壇は家庭の中心にありました。起きてまず、お仏壇の前に座っては朝の挨拶をし、夕方には帰宅の挨拶や一日の報告をすることが日課でした。お仏壇の横に掲げられたモノクロの写真を見ながらの毎日の営み。

今、思えばその小さな習慣が「心のよりどころ」となっていたのかもしれません。

核家族中心となった現代は心のよりどころ=お仏壇を失ってしまった社会。

多様化する子どもの教育問題や超高齢化社会問題と、未来に対する様々な問題を抱えている混沌とした今だからこそ、お仏壇の前に座り、ご先祖様に手を合わせる小さな習慣を重ねることで、家族の心のよりどころとなり、平穏な日本の未来が育まれることを願っております。

念珠半額

線香・ローソク2割引

お買替えの方の古い仏壇 期間中引取無料 ※県外や大型仏壇の場合は要相談





10月11日(金) 11月4日(月)·休日



浄土真宗のご家庭のお仏壇はどうして金仏壇なのでしょうか?

「仏説阿弥陀経」の中にその答えがあります。その中には美しい見事な極楽の世界がありありと描かれています。

「仏説阿弥陀経」とは法事の際にお寺様が読誦なされる経典です。その内容はお釈迦様の説かれた命の教えであり、インドの 「本人はないて長老の舎利弗尊者に語りかけられたお経です。

西の方、十万億の諸仏の国々を過ぎた所に極楽浄土があり、阿弥陀と名のられる仏さまがおられ、現にいま人々を迷いの海から救い出されていると説かれ、極楽浄土の美しい荘厳(ありさま)や、そこに住む人びとの尊い姿が示されています。

極楽浄土のありさまとは仏説阿弥陀経の中に【極楽の国には、七つの宝石で出来た池がある。池の底には金砂が敷き詰められており、池の周りの回廊の道は、金、銀、瑠璃、玻璃、という宝石で作られている。池の上には宮殿があって、この宮殿も、金、銀、瑠璃、玻璃、珊瑚、赤珠、瑪瑙で飾られている。池の中に開く蓮の花は、大きな車輪のようで、花々からは様々な色の光が照らし出され、おだやかで清く香しい世界を作り出している。天からは心地よい音が流れ出している。地面は黄金で作られており、一日中、天から仏の慈しみの花、曼荼羅の花が雨となり、降ってくるのだ・・・・。】と、書かれています。

このような極楽浄土を、金という最高の材料を使って表現したのが金仏壇であり、浄土真宗は、金仏壇が正しいといわれる。所以です。







18号紫檀調



金箔が黒くなったりうるしのつやがない 線番、ローソクの煙がこびかついてとれない 新築、法事を抱えているので修復したい 金貝のごけや遊り 塗装のはげやび切れ 仏地内部の強、へこみ 扉や脚子の間的がきつい

PME へこみ D開閉がきつい 約)の破損 ちている されている お見積り まれている 経過している















http://www.obutudan.net



○売り切れの際はご容赦下さい